

第5学年 国語科学習指導案

平成30年11月29日(木) 第5校時

授業者 松井 勝彦

1. 単元名

説明のしかたの工夫を見つけ、話し合おう
理由づけを明確にして説明しよう

2. 教材名 「天気を予想する」

「グラフや表を用いて書こう」

3. 指導の立場

「天気を予想する」は、児童にとって身近でありながら、その仕組みはよく知られていない天気予報を題材としている。前半は、天気予報が科学技術の進歩や国際協力によって支えられていることが科学データをもとに述べられている。後半は、科学データだけでは予想できない現象に触れ、人間の経験や知識の必要性について説明されている。科学技術の手法を有効に活用しながらも、自ら発見する天気の面白さや大切さを感じられるとよい。

小さな問いがあって答えがあり、また次の問いが生まれるということを三回繰り返す構成になっている。また、図や表、グラフ、写真といった資料を用いて説明をし、資料のレイアウトも文章に対応するように構成されており、筆者の考えもとらえやすい。したがって、それらの資料を用いることの効果や、取り入れた筆者の意図について読み取るのに適した教材であるといえる。

資料を用いることで、考えにより説得力を増すという点で、「グラフや表を用いて書こう」の学習に大きくつながってくる。そのため、「天気を予想する」で、資料の活用によって得られる効果を十分に読ませてから次の活動へとつなげていきたい。

説明の仕方については、5年生1学期の「生き物は円柱形」では、繰り返し使われている言葉、接続語、文章構成に着目して、要旨をとらえる学習をした。4年「アップとルーズで伝える」では、写真を用いて、アップとルーズを対比させて説明するとよく伝わることを学習している。

児童は、理科や社会科の授業で写真資料から情報を読み取って書くことには意欲的である。しかし、グラフから何が分かるかを書くことは苦手意識がある。また、意図的に資料を活用したり、構成を考えながら効果的に資料を使ったりする力は不十分である。

本単元では、「くらし」に関する説得力のある意見文を書くことを見通し、資料を提示している筆者の意図をとらえることを大きなねらいとする。そのためにまず、図や表、グラフ、写真のそれぞれのよさについて考え、資料の効果的な用い方について気付かせたい。また、読者に分かりやすいものにするためには、文章と資料を関連付けて伝える必要があるという、資料活用の際に大切な視点にも気付かせたい。

4. 研究内容の視点から

○研究内容1に関わって

全14時間の単元指導計画である。第一次では、単元を貫く課題を知らせ、学習計画を立てる。第二次では、第三次の言語活動をするために、文章構成、図や表、グラフ、写真を用いることの効果や筆者の意図を考え、説明の工夫をとらえる。第三次では、それまでの学習を活かして、自分で「くらし」に関する意見文をつくる活動を位置付けた。

○研究内容2に関わって

(2) 学び合いで考えを深める

①課題に迫るための発問

グラフについては数字があってよく分かるという考えにとどまることが予想される。そこで、2001年～2010年の表(平均を入れたもの)を見せ、この表でいいのではないかと問いかけ、「筆者はどうしてこのグラフを用いたのだろう。」と発問する。また、本文の「200回以上も」の「も」に着目させる。突発的な天気の変化が多いことを伝えたいから、単に回数が分かればよいのではなく、その変化を捉え、過去の数字と比較するためにこのグラフを用いていることに気付かせる。

(3) 自分の学びや考えを振り返る

②学習のまとめ

キーワードを用いてまとめるようにする。板書を計画的にまとめ、キーワードが何か分かりやすいようにする。

5. 単元指導計画

◇単元の指導目標

- ◎筆者が伝えたいこと、論の進め方、図表などの活用について考えをまとめて発表し合うことができる。(読(1)オカ)
- 筆者が伝えたいことを考えながら読むことができる。(読(1)ア)
- ◎目的や意図に応じて収集した事柄を、全体を見通して整理するとともに、引用したり図表やグラフを用いたりするなど書き方を工夫して、自分の考えが伝わるように書くことができる。(知(1)カ、書(1)アウエ)
- 書いたものを発表し合い、表現のしかたに着目して感想を伝え合うとともに、自分の文章のよいところを見つける。(書(1)カ)

<p>単元を貫く課題</p> <p>今のくらしに対する自分の考えをつたえるために、図・写真や表・グラフなどの資料を用いた説得力のある文章を書こう。</p>

次	時	ねらい	学習活動	筆者の説明の工夫	評価規準(評価方法)
第一次	1	「天気を予想する」を読み、初発の感想をもつことができる。	1. 天気について知っていることを交流する。 2. 本時の課題を確認する。 「天気を予想する」を読んで、はじめの感想をもとう。 3. 教科書 p 138～p 145 までを音読し、はじめの感想をもつ。		【関】天気に関心を持ち、初発の感想を書くことができる。(発言・ノート)
	2	感想を交流し、学習計画を立てることができる。	1. 前時の学習を振り返る。 2. 本時の課題を確認する。 はじめの感想を交流し、学習計画を立てよう。 3. 単元名やリード文、感想をもとに単元を貫く課題と学習計画を立てる。 4. 既習の文章との違いについて交流する。 5. 学習を振り返り、次時への見通しをもつ。		①題名
第二次	3	段落ごとに要旨をとらえ、小見出しをつけることができる。	1. 本時の課題を確認する。 段落ごとに要旨をとらえ、小見出しをつけよう。 2. 教科書 p 138～p 145 まで音読する。 3. 形式段落を確認し、意味段落に分ける。 4. 一人読みをする。 5. 全体交流をする。 6. 学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	③段落の中心となる言葉・文	【読】筆者の主張を読み取り、段落ごとに小見出しをつけることができる。(発言・ノート)
	4	写真や図、表と文章を対応させながら読む活動を通して、天気予報的中率が高くなった理由を読み取ることができる。	1. 本時の課題を確認する。 天気予報的中率が高くなった理由を読み取ろう。 2. 教科書①～③段落まで音読する。 3. 一人読みをする。 4. 全体交流をする。 5. まとめる。 6. 学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	③段落の中心となる言葉・文 ④つなぎ言葉 ⑨絵・写真・図・グラフと文をつなげる	【読】天気予報的中率が高くなった理由を読み取ることができる。(発言・ノート)
	5	写真やグラフと文章を対応させながら読む活動を通して、天気の予想を難しくしている要因を読み取ることができる。	1. 本時の課題を確認する。 天気予報的中率、百パーセントがむずかしいと考える理由を読み取ろう。 2. 教科書④～⑥段落まで音読する。 3. 一人読みをする。 4. 全体交流をする。 5. まとめる。 6. 学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	③段落の中心となる言葉・文 ④つなぎ言葉 ⑨絵・写真・図・グラフと文をつなげる	【読】天気の予想を難しくしている要因を読み取ることができる。(発言・ノート)
	6	突発的・局地的な天気の変化を予想するための手立てを読み取ることができる。	1. 本時の課題を確認する。 突発的・局地的な天気の変化を予想するための手立てを読み取ろう。 2. 教科書⑦～⑨段落まで音読する。 3. 一人読みをする。 4. 全体交流をする。 5. まとめる。 6. 学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	③段落の中心となる言葉・文 ④つなぎ言葉 ⑨絵・写真・図・グラフと文をつなげる	【読】突発的・局地的な天気の変化を予想するための手立てを読み取ることができる。(発言・ノート)

	7	<p>三つの問いと答えの関連に着目し、文章の構成と筆者の説明の仕方の工夫を読み取ることができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前時の学習を振り返る。 2. 本時の課題を確認する。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">筆者の構成の工夫を読み取ろう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 教科書 p 138～p 145 まで音読する。 4. 問いと答えを確認し、三つの関係について一人読みをする。 5. 全体交流をする。 6. 考えを深める。《グループ》 7. まとめる。 8. 学習を振り返り、次時への見通しをもつ。 	<p>④つなぎ言葉</p> <p>⑧段落と段落のつながり</p> <p>三つの「問い」と「答え」が連続する。</p> <p>【読】問いと答えという構成に気付き、構成の効果や筆者の意図を理解することができる。(発言・ノート)</p>
	8 本時	<p>図表やグラフ、写真と文章のつながりに着目し、筆者が資料活用を用いた意図について、表・グラフは文章の裏付け、写真や図はイメージや様子が分かるようにして、説得力が増すようにするために用いたことを理解することができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前時の学習を振り返る。 2. 本時の課題を確認する。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">筆者はどのように図・写真や表・グラフを用いたのだろう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. それぞれの資料の効果について、一人読みをする。 4. 全体交流をする。 5. 考えを深める。《グループ》 6. まとめる。 7. 学習を振り返り、時への見通しをもつ。 	<p>⑨絵・写真・図・グラフと文をつなげる</p> <p>【読】表や写真・図・グラフに着目して読み、説明の仕方の工夫を考え、その効果や意図に気づくことができる。(発言・ノート)</p>
第三次	9	<p>教科書の例文を読み、意見文の書き方の見通しをもち、自分の考えを整理することができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書 p 152・153 を音読する。 2. 本時の課題を確認する。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「くらし」について、根拠をもって自分の考えを明確にしよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 「くらしやすさ」と「くらしにくさ」のどちらの立場で意見文を書くのかを決める。 4. なぜそう考えるか根拠を書きだす。 5. 学習を振り返り、次時への見通しをもつ。 	<p>【関】教科書の例文を読んで、意見文の書き方の見通しをもち、自分の考えを明確にすることができる。(ノート)</p>
	10	<p>整理した自分の考えを裏付けるために、どのように構成し、どのような資料を引用するとよいか考え選ぶことができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前時の学習を振り返り、本時の学習の見通しをもつ。 2. 本時の課題を確認する。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">読み手がなっとくできるような資料を集め、選ぼう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. パソコンや図書等から必要な資料を探す。 4. 資料を読み取り、実際にはどうなっているか確かめる。 5. どの資料を、どこで、どのように使うか決める。 6. 学習を振り返り、次時への見通しをもつ。 	<p>⑨絵・写真・図・グラフと文をつなげる</p> <p>【書】自分の意見を述べるために必要な資料を選ぶことができる。(ノート・観察)</p>
	11	<p>文章構成と必要な要素を理解し、何をどのような順序で書くか考えることができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の課題を確認する。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">何をどのような順序で書くか、構成を考えよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 教科書の例文を読み、文章の構成を理解する。 3. 「グラフや表を説明するとき」を読み、グラフや表を用いるときの留意点を確認する。 4. 何をどのような順序で書くか決めて、構成メモを作る。 5. 本時の活動を振り返り、次時への見通しをもつ。 	<p>⑧段落と段落のつながり</p> <p>【書】説得力のある文章を書くための構成やその要素を理解して、何を、どの順序で書くかを決めることができる。(ノート)</p>
第三次	12 13	<p>自分の考えを裏付ける資料を効果的に用いながら、意見文を書くことができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の課題を確認する。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料を使って、意見文を書こう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 構成メモを参考にして、意見文を書く。 3. 書いたものを読み返し、推敲する。 4. 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。 	<p>②終わりの言い方</p> <p>③段落の中心となる言葉・文</p> <p>④つなぎ言葉</p> <p>⑧段落と段落のつながり</p> <p>⑨絵・写真・図・グラフと文をつなげる</p> <p>【書】資料を効果的に用いながら、自分の考えを明確にして意見文を書くことができる。(ノート)</p>
	14	<p>文章の書き方、用いた資料について班の仲間と意見や感想を交流し、考えに説得力をもたせるための資料の用い方を理解することができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の課題を確認する。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分たちの意見文を班の中で読み合い、感想を伝え合おう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 文章を読み合うときの観点について考える。 3. 文章を読み合い、意見や感想を伝え合う。 4. 単元の学習を振り返る。 	<p>②終わりの言い方</p> <p>③段落の中心となる言葉・文</p> <p>④つなぎ言葉</p> <p>⑧段落と段落のつながり</p> <p>⑨絵・写真・図・グラフと文をつなげる</p> <p>【書】仲間の意見文を読み、優れた点を具体的に指摘することができる。(ノート・発言)</p>

6. 本時の展開 (8 / 14)

(1) 本時のねらい

図表やグラフ、写真と文章のつながりに着目し、筆者が資料活用を用いた意図について、表・グラフは文章の裏付け、写真や図はイメージや様子が分かるようにして、説得力が増すようにするために用いたことを理解することができる。

(2) 本時の展開

	ねらい	学習活動	教師の指導・援助
つかむ 【3分】	前時の学習内容から、本時の課題をつかむことができる。	1. 前時の内容を振り返る。 2. 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">筆者はどのようにして図・写真や表・グラフを用いたのだろうか。</div>	・ 掲示物で前時までの学習を振り返る。
さぐる 【24分】	それぞれの資料の効果を考えることを通して、筆者が図表やグラフ、写真を用いる意図について読み取ることができる。	3. それぞれの資料の効果について、一人読みをする。 ○ 東京地方の降水の予報精度 (表) → 的中率がだんだん高くなったことが数字からよくわかる。 ○ 気象レーダーとアメダスの観測装置 (写真) → 知らないものがはっきりとわかりイメージできる。 ○ 気温の予想図と天気予想図 (図) → 何種類もの予想図のうち、2つが具体的にわかる。 ○ 静止気象衛星と静止気象衛星からの写真 (写真) → 静止気象衛星がどんなものかよくわかる。写真によって雲がおおっている様子がよく分かる。 ○ 1時間に50ミリメートル以上の雨が観測された回数(グラフ) → 2001年から2010年で平均して年に200回以上あることがよくわかる。 4. 全体交流をする。 ・ 具体的に数字でよく分かる。 ・ イメージしやすい。	①～⑤段落で考える。 ・ 図表、グラフ、写真を印刷したプリントに効果を書き込む。 ・ 前時までに書き込んだ教科書を参考にする。 ・ 気付かない児童には、この資料がなかったらどうかということを問いかけて気付くように援助する。 ・ 理由をつけることやつなぎ発言を認めていく。
深める 【9分】	筆者がより自分の考えを裏付ける資料を用いていることに気付くことができる。	5. 考えを深める。 2001~2010の表を見せて「この表ではどうか」問いかけてから <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">筆者はどのようにしてこのグラフを用いたのだろうか。</div> ・ グラフだと見ただけで、多くなっていることが分かるから。 ・ 表だけだと200回以上は分かるけど、それが多いかは分からないから。 ・ 本文の「200回以上も」の「も」があるから、筆者は多いこと言いたい。そのためには、表だけでは伝わらないから。	・ グループ交流では、ホワイトボードに意見を書きながら班としての意見をまとめる。(司会と記録を決める) ・ 「も」に目を向けるようにさせる。
まとめる 【8分】	筆者の意図についてまとめ、自分に取り入れようすることができる。	6. キーワードをもとに本時のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">筆者は、表・グラフは文章の裏付け、写真や図はイメージや様子が分かるようにして、説得力が増すようにするために用いた。</div> 7. 学習を振り返り、次時への見通しをもつ。 三次で活かしたいこと、もっと考えてみたいことなど本時の振り返りをする。	・ まとめでは、つまづいている児童にキーワードを提示し、支援する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; font-size: small;">評価規準・評価方法 【読むこと】 筆者が資料を用いる意図をキーワードを使ってまとめることができる。(発言・ノート)</div>